



離乳食作りを楽しむ母親たち

離乳食作りで母親交流

フォーリーブス離乳食教室

慈光こども園の子育てサークル「フォーリーブス」の離乳食教室が8月3日に保健センターで開かれ、球磨郡内や西米良村から親子6組が参加し、調理の方法を学びました。

今回は離乳食作りをテーマに4カ月～9カ月の子を持つ母親が参加しました。3人の保育士が別室で赤ちゃんの子守りをし、参加者たちは町の管理栄養士である田中朋子さん(53=上里3)から、「ナン」「チキンと野菜のトマト煮」「りんごのくずもち」などを作る過程で離乳食を作る方法を学びました。遠山蒼士くん(9カ月)の母親の侑未さん(27=あさぎり町)は「みんなで楽しく活動できた。昆布だしを水出しでとる方法を教えてもらったので、家でもだしをとって、離乳食を作りたい」と話していました。



地域の文化遺産を活用する大切さを学んだ受講者

文化の宝を生かそう

日本遺産講座

日本遺産講座が7月25日に農村環境改善センターで開かれ、湯前町、多良木町、水上村の住民約50人が参加し、管内の歴史や文化を学びました。平成27年度に人吉球磨の文化財でつくられたストーリーが県内第1号として同遺産に認定。地域の文化財の魅力を多くの人に知ってほしいと3町村の教育委員会が主催し、本年度、3回の講座を予定。

今回は、多良木町教育委員会の学芸員、永井隆宏さんが講師を担当しました。永井さんは人吉球磨の石塔に注目しながら、地域に豊富な文化遺産があることを説明。「東京オリンピックで外国人旅行客が増え、古民家や食文化を活用する必要があり、まずは地域住民の皆さんに、地元の魅力に気づいてほしい」などと話していました。



水槽の角に追いつめ、マスを得

つかみ取りやバザーにぎわう

JA湯前店納涼祭

球磨地域農業協同組合(JA=福田勝徳組合長)の第39回湯前店納涼祭が8月11日に同店の駐車場で開かれ、来場者は各種バザーやマスのつかみ取りなどの催し物を楽しんでいました。

会場うしろ側に設けられた水槽では、名物「マスのつかみ取り」が行われ、子どもから大人までが、素早く逃げるマスをつかもうと、水しぶきを上げて走り回っていました。

会場内では、Aコープ、JA女性部・青壮年部などが九つの店を出し、フライドポテトやフランクフルト、焼き鳥、かき氷、生ビールなどを販売。ステージでは、コーラスグループ「デル・フィオーレ」やプロ歌手の綾野さつきさんによるショー、もち投げが行われ、にぎわっていました。

よく褒めて子を伸ばす

特別支援連携協議会研修会

特別支援連携協議会(会長=中村和弘教育長)の夏の研修会が7月27日に農村環境改善センターで開かれ、教育・福祉関係者や地域住民など112人が上手に子どもを伸ばすコツを学びました。

会長の中村教育長は「子どものニーズに合わせ、保・小・中の連携にも取り組んでいる。0歳から15歳までの一貫した子育て、教育が大事。講演の内容をまわりの人にも広めていただきたい」とあいさつ。

湯前中学校で特別支援学級を担当する加藤仁士さん(54=下村)が講師として、「普段からこまめにほめる」「叱ったあとに褒める努力を」などと、子どもの接し方を発達障害の知識とともに参加者へ伝えていました。



加藤さんからほめ方のコツを学んだ参加者

森づくりへの思い学ぶ

JT・JR新入社員湯前研修

本町とともに森づくりに取り組む日本たばこ産業(JT)と、九州旅客鉄道(JR)の新入社員研修が8月2日にゆのまえ温泉「湯楽里」一帯で開かれ、九州各地の社員32人が森づくりの学習や鶴田正巳町長との対談などで仕事や社会貢献活動への思いを高めていました。

研修はJTで行われている森づくり活動の理解を深めようと開催され2回目でJRの社員の参加は初。社員は国内の森林・林業の現状を学び、JTの森や上球磨森林組合出荷センターなどの現場などを見学。町長との対談でも積極的に質問しました。酒井謙一さん(23=大分支店)は「森林の整備は予想以上に長い時間がかかると感じた。JTの森の活動の意味が理解できた」と話しました。



町職員の説明を受け、JTの森を見学する社員

開設50周年記念で町へ寄付

多良木ロータリークラブ

多良木ロータリークラブの村井信隆さん(79=下城)と向江富士夫さん(60=植木)が7月27日に湯前町役場を訪れ、クラブ開設50周年記念として、10万円を寄付しました。

同クラブは地域貢献を目的に活動する団体で、現在会員は22人。錦町～水上村までの5町村で活動し、子どもたちのスポーツ交流や、地域の美化活動などを行っています。

今回はクラブ開設50周年記念として、活動する5町村に寄付。過去にクラブの会長を務めた経験のある、村井さんと向江さんが役場を訪れ、鶴田正巳町長に寄付金10万円を手渡しました。二人は鶴田町長へ「防災関係に使ってほしい」と話していました。



鶴田町長へ寄付を手渡す村井さん(左)と向江さん